

2007年度 研究の国際化推進プログラム「多様な国際連携スタートアップ」種目 報告書

研究代表者	所属機関・職名： テクノロジー・マネジメント研究科 氏名： 香月祥太郎
研究テーマ	『次世代 MOT に向けた研究拠点と国際連携ネットワークの形成』 ーサービス・イノベーションによる新産業・新市場の創出をめざしたグローバル共同研究ー

I. 国際連携先の概要

提案機関 ・プロジェクト名	(機関名) 英国 Cambridge 大学 Institute for Manufacturing, スイス連邦工科大学 Swiss ETH (プロジェクト名) 『次世代 MOT に向けた研究拠点と国際連携ネットワークの形成』 ーサービス・イノベーションによる新産業・新市場の創出をめざしたグローバル共同研究ー
共同研究機関	(名称) 日本IBM東京基礎研究所、IBMビジネス・コンサルティング・サービス(株) GATIC-Japan(代表者代理) 香月祥太郎

II. 研究計画の概要

今回の国際連携スタートアップの目的・狙い、意義・必要性について、簡潔、明瞭に記入してください。

グローバル化するわが国の企業は、益々高度な技術の開発と市場の獲得が必要となり、技術シーズを創出する仕組みの探索、さらには事業展開のサービス化や迅速化に対応した的確な意思決定と経営判断が必要となっている。

本研究は、戦略技術ロードマップの技法をもとに新たな“知を生み出す場”の創出と、サービス・イノベーションを目指す市場開発について研究すると共に、国内外の研究機関との国際連携協力の基盤の構築を目指す。

III. 研究成果の概要

今回の国際連携スタートアップで得られた成果、目標達成度、今後の展開計画について、ポイントを絞り具体的に記入してください。

1. サービス・イノベーション研究について
近年のサービス・イノベーション概念の普及は、わが国企業の新たなサービス化への移行を促しており、生産性の向上やさまざまなサービス技術による未踏市場の開拓等に向けた取り組みが進んでいる。これらに対して、これまで研究してきた“戦略技術ロードマップ”の成果を発展させ、感性に基づくマーケティングとサービス・イノベーションに関する研究を行った。その成果を 2007GATIC(Global Innovation Challenges and Opportunities)(HAWAII)にて発表(2007年9月28日)し、また研究・技術計画学会第22回年次学術大会(2007年10月28日)にて口頭発表を行った。
2. 技術戦略ロードマップ/マッピング技法“MAFFINT 法”の確立と実証研究の実施
研究代表者らの開発による新市場の探索と技術ロードマッピングを実現するマーケット・フォーサイト法“MAFFINT 法”について、この分野の世界的権威であるファール博士(ケンブリッジ大学)、チルキー教授(スイス ETH)の両氏と意見交換し、その技法、実践ワークショップ進め方等について多くの示唆を得て、市場・技術予測手法としての精度を高めた。また、この MAFFINT 法の検証と実践的有用性を確認すべく、村田製作所、ニチコン、東洋製罐の各社、及び台湾工程技術研究院(ITRI)材料異化工研究所、タイ王国国立科学技術開発省科学技術開発機構(NSTDA)に対して実証講義を実施した。
3. 国際連携研究のための海外大学、研究機関との交渉
一昨年から進めているGATIC国際コンソーシアムで協力関係にあるスイス連邦工科大学 Hugo Tschirky 教授、英国ケンブリッジ大学 IfM(Institute for Manufacturing) David Probert 教授、Rob Phaal 上級研究員(2008年3月に訪問)、及び北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科井川康夫教授らと国際連携による共同研究の可能性を打診し、具体的な研究提案を行った。全教授から国際連携研究について快諾を受け、それを具体化すべく研究内容の検討と覚書の締結等について準備作業を行っている。
4. IBM SSME-University の研究会への参加と実証研究の準備
日本IBM東京基礎研究所によるIBM SSME-University の研究会に参加し「サービス・サイエンスとイノベーション研究」を開始した。「製造業におけるサービス化の要因と価値構造」について日本IBMとIBCSと実証研究を行う準備を進めている。以上